

第111回 学生主導型コンテンツ制作とその狙い

- 学生主導型コンテンツ制作の始動
 - eラーニングの活用推進の起爆剤に！, 参考事例(2つ)
- 日本初！eプレゼン・コンテストの開催
 - 開催趣旨・概要・コンセプト, 機材・システム・ホームページ, 審査, スケジュール・テーマ, 学生支援, 選考の推移(チーム数), 表彰式, 将来構想, 関連サイト情報(まとめ)
 - 大学の期待する効果, 学生への効果
 - 韓国研修旅行
- 支援体制の維持と発展に向けて
 - 博士論文(あらまし, 大学eラーニングマネジメントモデル, 課題)
- 今後の展開について
 - 学生主導型コンテンツ制作の今後
 - 明治大学ユビキタス教育の推進



参考事例 (韓国:全北大学)

• 学習コンテンツフルプログラム

– 韓国教育科学技術部(日本でいう「文部科学省」)が推進する「大学教育力量強化事業」の一環として、学生にコンテンツを作らせている

- コンテンツのテーマは、自分の専攻科目
- 2009年度は1000人以上の学生が参加、4次にわたる審査
- 参考URL(韓国語:Internet Explorerで視聴可能)

http://ctl.chonbuk.ac.kr/servlet/service.mypage.bbs.VODBBSArticleServlet?func=bbs_article_00

– 効果

- 学生のモチベーション, プレゼン力増大
- 国からの評価で助成金がアップ
- 教職員のコンテンツ制作負担が軽減



参考事例 (韓国:韓国経済新聞 HiCEO)

- 大学生プレゼンテーションコンテスト
 - 韓国経済新聞の「HiCEO(※)」が主催する, 大学生対象のプレゼンコンテスト
 - コンテンツのテーマは, 自分の専攻科目/HiCEOで学んだこと
 - 新聞社の「社会貢献活動」の一環として開催
- ※HiCEO (www.hiceo.co.kr)
 - 韓国経済新聞が, 会社の経営者に特化した情報を提供するサイト
 - オフラインでも, 大学生を対象としたビジネス講座を開設している
 - ・プレゼンテーション力強化講座も開設されている



コンテスト開催の趣旨

- 130周年を契機に、未来へ大きく羽ばたく明治大学の象徴としての「**学生が主役となったイベント**」

過去に前例がない斬新なもの

学習や学生生活に密着したもの

学生が主役のイベントで

未来へ輝く
明治大学へ！

多くの学生が参加できるもの

多くの人に公開できるもの



コンテストの概要

- 明治大学の学生を対象に、自分が大学で学んだ知識や、サークルなどの大学生活を、「**リッチコンテンツ**」にまとめ、**プレゼンテーション能力**、**デザイン力**を競い合うコンテスト

－「リッチコンテンツ」とは？

- PowerPoint や写真、イメージ、動画などの様々な資料を取り込んで、その内容を**プレゼンテーション形式**で説明するコンテンツです。

「映像＋資料」型



「音声＋資料」型



コンテストのコンセプト

- インターネット環境で、より**多くの学生がコンテストに参加**できるようにする
- 学生のコンテンツは、インターネットにより**多くの人が視聴**できるようにする(学内のみの公開とする可能性もあり)
- コンテストで使用するシステムや制作ツールは、**他のイベントや通常の学習などで引き続き使用**できるようにする



開催に必要な要素（機材・システム）

- Xinics Commons（コンテンツ配信プラットフォーム）
 - Webサーバ/Streamingサーバ
 - 必要に応じて、「コンテスト専用サイト」を構築
 - セキュリティの確保等，技術サポート
- LegatoUX / SilverStream（コンテンツ制作ツール）
 - コンテンツ制作ツールはXinics Commonsから起動
 - コンテンツ制作用PCは学生が準備，学内PCの利用も可能
 - フリーライセンス
- 制作スタジオ
 - 駿河台キャンパスには，2011年夏に設置。和泉，生田も利用可能とする
 - コンテンツ制作ツール搭載/システム構築
 - Xinics Commonsや，コンテンツ制作管理システムと連動
 - 通常のe-Learningコンテンツ制作に転用できることを前提とする
 - クロマキー効果



(参考) 「Xinics Commons」について

The diagram features a central image of the Xinics Commons interface with silhouettes of people dancing. Surrounding this are several callouts and text boxes:

- 制作ツールはWebサイト上からフリーライセンスで提供** (Production tools are provided for free on the website)
- 制作ツールはWebから起動** (Production tools start from the web)
- 特徴1** どこでもコンテンツ制作が可能 (Feature 1: Content creation possible anywhere)
- 特徴2** 多様な視聴環境へ対応 (Feature 2: Support for diverse viewing environments)
- 特徴3** 制作ツールと一体化 (Feature 3: Integrated production tools)
- 特徴4** 大学サイト/LMS連携が容易 (Feature 4: Easy integration with university sites/LMS)
- 明大システム/LMS/ホームページや、サークルのブログ等に気軽に連携・転載が可能** (Easy integration and transfer to Meiji University systems, LMS, homepages, and club blogs)
- 制作ツール起動 → コンテンツ制作 → Upload までの作業が一元的に可能** (Unified workflow from tool start to upload)
- 海外や他の大学との共用に便利** (Convenient for sharing with overseas and other universities)

Additional details include: Mac/Mobile viewing OK, Japanese/Korean/English language support, and logos for LeGato UX and SILVERSTREAM.

募集・広報・宣伝用サイト



- 明治大学創立130周年記念特設サイト内
- eプレゼン・コンテスト公式ホームページ
- iTunes U の特設コース

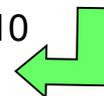


審査



・ 審査委員会

区分		役名	備考
明治大学関係者 (4名)	委員長	ユビキタスカレッジ運営副委員長	
		情報基盤本部長	
		教育の情報化推進副本部長	
		明治大学職員	
外部有識者 (3名)		JOCW事務局長 研究・知財戦略機構特任教授	
	海外協定校	教務部署長 教授学習開発センター長 eラーニング支援センター長	
	海外協定校	教授学習センター 室長	
特別審査委員		副学長 ユビキタスカレッジ運営委員長	最終選考のみ審査
		AFP通信賞審査担当者	AFP通信賞のみ審査



● 審査方法

9名からなる審査委員会によって、以下の項目について評価し、審査しました。

▼審査項目

(「◎」が重点評価ポイント)

1次予選: ◎わかりやすさ

2次予選: ◎わかりやすさ

デザイン力

独創性

その他

決勝 : わかりやすさ

◎デザイン力

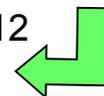
◎独創性

その他

審査項目	評価のポイント	満点	採点欄	合計
わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容が明確で理解しやすい ・ 5分以内で説明できる ・ 図表やグラフの活用による視覚的効果 ・ 専門用語の適切な説明 ・ 話し言葉・書き言葉の適切な使用 	5	0	0
デザイン力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的に訴えるデザイン ・ 色・フォント・レイアウトの適切な使用 ・ 5分以内で説明できる ・ 図表やグラフの活用による視覚的効果 	5	0	0
独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自の視点やアイデア ・ 既存の課題に対する新しい解決策 ・ 5分以内で説明できる 	5	0	0
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションの構成 ・ 質疑応答の対応 ・ 5分以内で説明できる ・ 図表やグラフの活用による視覚的効果 	5	0	0

eプレゼン・コンテスト スケジュール

区分	日程	
1次予選	コンテンツ提出締切	6月30日(木)
	審査期間	7月10日(日)～7月18日(月) 24:00
	結果発表(含 2次予選課題発表)	7月20日(水) 14:00
2次予選	コンテンツ提出締切	8月26日(金) 18:00
	審査期間	8月27日(土)～9月06日(火) 24:00
	結果発表(含 決勝課題発表)	9月09日(金) 14:00
決勝	コンテンツ提出締切	10月15日(土) 18:00
	審査期間	10月16日(日)～10月31日(月)
審査委員会・結果発表・表彰		11月4日(金)
韓国研修		11月23日(水)～11月27日(日)



eプレゼン・コンテスト テーマ

- コンテンツの課題

- 1次予選：「〇〇」について

- ※各チームが〇〇を決定し、それを紹介するコンテンツを制作すること

- ※題名まで『「〇〇」について』にする必要はない

- 2次予選：以下の中から選択する

- 明治大学で得たこと(もの)
 - 明治大学で出会えたこと(もの)
 - 明治大学で学んだこと(もの)
 - 私にとっての明治大学

- 決 勝：私の未来のために



eプレゼン・コンテスト 2次予選 コンテンツ制作支援

【1】開催概要

事務局スタッフが丁寧な支援しますので、是非、ご活用ください。

日付	コンテンツ制作支援(全日 10:00~16:00)		
	駿河台 Campus	和泉 Campus	生田 Campus
7/20 火	12号館 M57 教室		
7/27 水	12号館 3052 教室		
7/28 木	12号館 3052 教室		
7/28 金	12号館 3052 教室		
8/1 月	12号館 3103 教室		
8/3 火		メディア棟 M53, M56, M57 教室	
8/3 水	アカデミーコモン 3103, 3114, 3101 教室		
8/4 木			第二校舎A館 M01/M402 教室
8/5 金	アカデミーコモン 3106, 3107, 3101 教室		
8/8 月	アカデミーコモン 3106, 3107, 3101 教室	メディア棟 M53, M46, M47 教室	
8/9 火	アカデミーコモン 3106, 3107, 3101 教室		第二校舎A館 M01/M402 教室
8/17 水	リハビリタワー 1003, 1004, 1005 教室		
8/18 木	リハビリタワー 1003, 1004, 1005 教室	第三校舎 31, 32, 33 教室	
8/18 金	リハビリタワー 1073, 1074, 1075 教室		
8/22 月	リハビリタワー 1073, 1074, 1075 教室		第二校舎A館 M01/M402 教室
8/23 火	リハビリタワー 1073, 1074, 1075 教室	メディア棟 M53, M46, M47 教室	
8/24 水	アカデミーコモン 3103, 3107, 3101 教室		第二校舎A館 A401/M402 教室
8/25 木	アカデミーコモン 3103, 3107, 3101 教室	メディア棟 M53, M46, M47 教室	
8/26 金	アカデミーコモン 3103, 3114, 3101 教室		第二校舎A館 A401/M402 教室

※日程によっては、時間を延長する場合があります。

※授業教室がある日曜日は、9時～19時の開催にお越しください。

※1次予選制作支援と同様に講師の貸し出しも行いますが、数に限りがあります(無償は、予約優先でのご利用となります)。

※マシンの貸出、www.ncc.ac.jp (予約優先) (予約優先: support@ncc.ac.jp)。

※予約状況によっては、予約なしの期間と重複することがあります。

【2】2次予選のテーマ

以下のテーマの中から一つのテーマを選択して作品を制作してください。

- A : 明治大学と異文化と(その他)
- B : 明治大学と社会と(その他)
- C : 明治大学と学生と(その他)
- D : 他によっての明治大学

【3】コンテンツの提出方法

コンテンツ制作サイト <http://ncc.ncc.ac.jp> から「New Project」をクリックして制作、提出してください。

コンテンツ提出締切は、**8月26日(金) 18:00**です。

eプレゼン・コンテスト要項



- 参加資格
 - 明治大学O・B・卒生
- チーム構成
 - 2人以上3人までのチーム単位とするが、個人参加も可とする。
- コンテストの形式および課題

	コンテンツの課題
1次予選	『COO』について ウォッシュの概念を『COO』について取りまねる必要があります。 ※各チームがCOOを決定し、それを紹介するコンテンツを制作すること。
2次予選 決勝	1次予選終了後2発表 (1次予選とは違う課題) 2次予選終了後2発表 (1次/2次予選とは違う課題)

4. 賞状

	授賞回数 (部)	発表	賞状授与数	授与 カード	(その他 物品)	賞状 金額(円)
優秀賞	1	○	○	1万円分		○
優秀賞	○	○	○	2万円分		○
賞状授与特選	○	○	○	2万円分		○
佳作 (21名/部: 10部-10名)					2万円相当	○
システムゼウス賞 (1次予選通過者)					1万円相当	○
入賞者全員(全エントリー者を含む)					1万円	○

※ 授賞対象・授賞回数等は変更あり(学生定数の変更)

※ 1次予選受賞: 2次予選を通過したコンテンツは、1次予選: 2次予選

5. 審査基準

- 下記の4項目である。

※コンテンツ構成 / デザイン / 動画性 / おもしろさ

6. スケジュール

区分	日付	時間
1次予選	エントリー開始	6月16日 10:00
	エントリー締切	6月30日 16:00
	コンテンツ提出開始	6月30日 18:00
	結果発表・2次予選テーマ発表	7月16日 14:00
2次予選	コンテンツ提出開始	8月15日 18:00
	結果発表・決勝テーマ発表	8月22日 14:00
決勝	コンテンツ提出開始	10月8日 13:00
	結果発表	11月1日 (予定)
表彰式	11月上旬	

※スケジュールは、状況により変更される場合があります。各チームメンバーに随時ご連絡すること。

※結果発表は、各チームホームページで発表する。

※決勝日の発表は、1年次生専用ホームページの即時発表とする(予定)。

7. お問い合わせ先

- 4コンテンツ制作サイトに関する不具合は、コンピュータ使用状況等によって、
 - お問い合わせ: 〒101-8301 東京都中央区築地5-2-1-1 江戸区1階
 - TEL: 03-3296-4402
 - Eメール: support@ncc.ac.jp



学生十人



©2011 宮原俊之

ランチオンセミナー

eラーニング授業設計支援室 ランチオンセミナー

eプレゼン
コンテスト
が求む!

2011年6月27日

eプレゼン・コンテスト紹介/制作ツール体験

特設ブース開設しました!!

学生



特設ブース開設日表

- 事務局スタッフが丁寧に説明しますので、ぜひ来てください。

月日	時間	キャンパス	場所
5月30日 日曜日	11:30 ~ 17:45	生田キャンパス	中央校舎 1階ロビー
5月31日 火曜日	11:30 ~ 18:00		
6月1日 水曜日	11:30 ~ 19:30	殿河谷キャンパス	リパティタワー 1階
6月2日 木曜日			
6月3日 金曜日	11:30 ~ 19:30	和泉キャンパス	メディア棟 1階ラウンジ
6月4日 土曜日	11:30 ~ 16:00		

【 eプレゼン・コンテスト要項 】

1. 参加資格

- 明治大学の在学生

2. チーム編成

- 2人または3人のチーム単位とするが、個人参加も可能とする。

3. コンテストの形式および課題

	コンテンツの課題
1次予選	『POO』について ※コンテンツの題名を『POO』について』とする6枚はありまけん。 ※各チームPOOを決定し、それを基にするコンテンツを作成すること。
2次予選 決勝	1次予選終了後に発表 (1次予選とは違う課題) 2次予選終了後に発表 (1次/2次予選とは違う課題)

4. 賞状(予定)

	韓国研修 ePO	表彰	広報誌掲載	図書 カード	その他 物品	iTunes II 公開 (※)
最優秀賞	○	○	○	5万円分		○
優秀賞	○	○	○	3万円分		○
審査員特別賞		○	○	2万円分		○
佳作 (0位~30位)					2万円相当	○
1次予選通過者					1万円相当	○

※韓国研修：韓国のお宅に訪問および学生との交流

※ iTunes II 公開：各予選を通過したコンテンツは、「iTunes II」で公開

5. コンテンツの导出方法

- コンテンツ制作サイト (<http://eai100mons.muc.ac.jp/>) から「Silverstream」を利用して制作
- コンテンツ提出締切日: 6月30日 18:00 とする。

進機
ラン

eプレゼン・コンテスト 進出情報

1次予選参加

エントリー: 57チーム(125人)

出品: 35チーム(86人)



35チーム進出

2次予選参加

エントリー: 35チーム(86人)

出品: 22チーム(50人)



15チーム進出

決勝参加

エントリー: 15チーム(36人)

出品: 14チーム(33人)



学生対抗！

第1回 eプレゼン・コンテスト 入賞チーム決定！

11月4日(金)に行われた「eプレゼン・コンテスト結果発表&表彰式」において、
入賞チームが発表されました！



賞	チーム名	メンバー
学長賞・最優秀賞	水密機	情報コミュニケーション学部 2年 山本 滉
優秀賞	M-Students' Hot News	理工学部 2年 田中 悠真 理工学部 3年 斎藤 夢史 理工学部環境科 1年 小崎 優次
	まごころ69	文学部 4年 高橋 翔輝 文学部 4年 吉岡 智哉 文学部 4年 岡田 有希
	どんじゃら	情報コミュニケーション学部 4年 尾崎 俊史 文学部 4年 関 孝彦
審査員特別賞	BLT feat. Inter I	経済学部 2年 岡川 陸 文学部 4年 三川 奏子 文学部 3年 古藤 蓮次
佳作	サイエンスチャンネル、阪井ゼミA、チーム下谷、チームJ 月の石、ナビチカ、モーニング珈琲、DC-BJK、3307 (50名)	
AFP 通信賞	阪井ゼミA	法学部 3年 犬塚 翔平 法学部 3年 坂本 竜太郎

 学長賞・最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞受賞の皆さんは、韓国・嶺南大学校(協定校)を訪問します。また1月には、明治大学にて韓国・嶺南大学校の学生との交流会が開催されます。学生の皆さんはぜひ参加しましょう！

2012年度「第2回eプレゼン・コンテスト」の開催が決定しました！
詳しくは、随時公式ホームページにてご案内します。

eプレゼン・コンテストについて、詳しくは公式ホームページをご覧ください。
<http://meljcommons.nuc.melji.jp/epresen/>



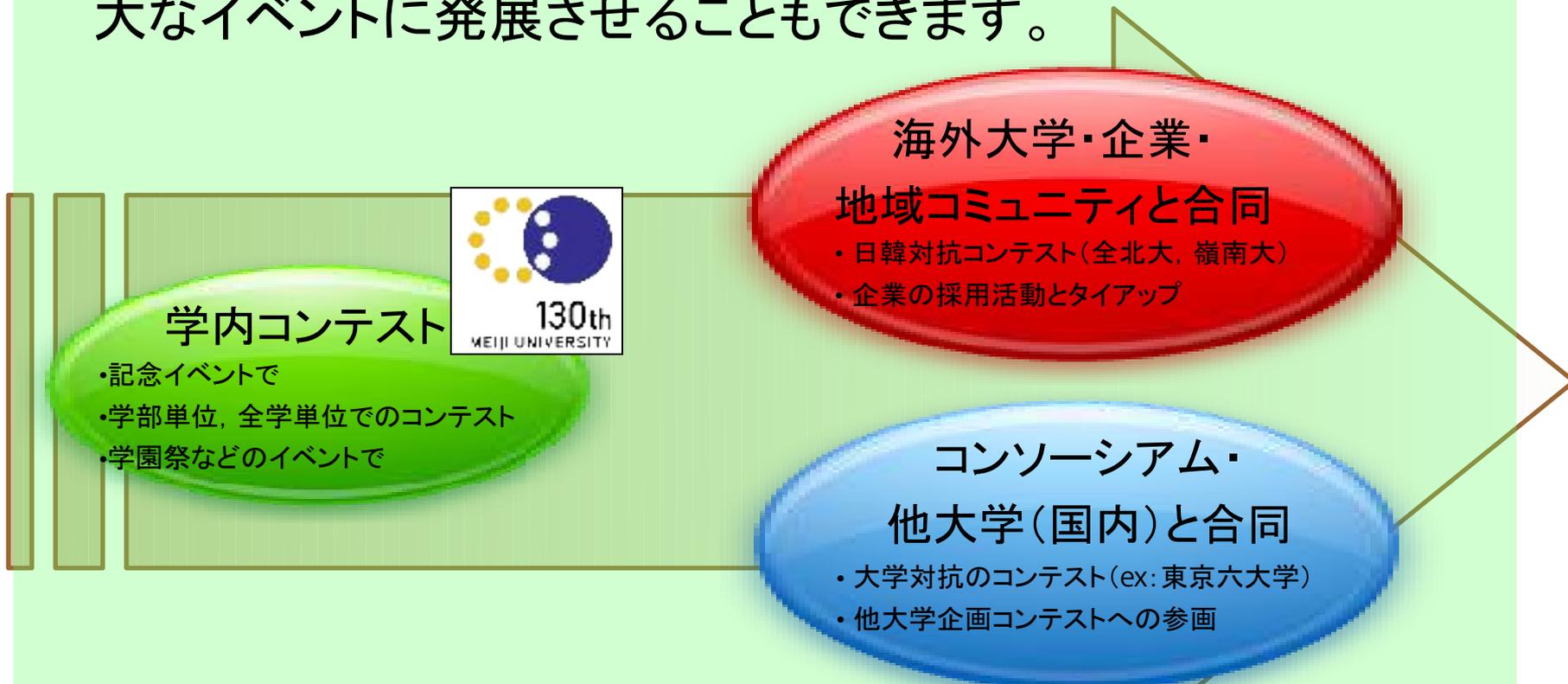
コンピュータ教育推進事務局
<http://www.melji.ac.jp/ubla/>



▽授業設計支援室

将来の計画 (対外戦略)

- 「インターネットによるコンテスト」の特性を最大限に活かすことにより、今後、**国内の他の大学や海外の大学と連携した盛大なイベントに発展させることもできます。**



将来の計画 (学内戦略)

- 学生が制作するコンテンツは、イベントだけでなく、様々な分野に活用することができます。
 - 「**学生目線の新たな活用法**」の登場を期待



就職活動の経歴

eポートフォリオ

ゼミの発表資料

サークル活動の記録

授業補助教材

キャリア教育

入学前学習教材

先進的な取り組み
をととした大学PR



第2回大会に向けて

- 第1回の反省を受けて
 - 参加者を増やす
 - 広報活動の早期開始
 - 広報活動方法の見直し, 拡大
 - エントリー数と出品数との差をなくす
 - 説明会の見直し
 - 支援方法の見直し
- 大会方式の変更, 拡大
 - 複数の大学と合同で実施(明治大学が中心)
 - 海外の大学と合同で実施(対抗戦も)



関係サイト情報(まとめ)

- eプレゼン・コンテストホームページ

<http://meijicommons.muc.meiji.jp/epresen/>

- 130周年記念事業ホームページ

<http://www.meiji130.jp/project/contest/e/?term=2&type=t&src=2&pageno=0&i>

- コンテンツ管理システム

<http://meijicommons.muc.meiji.jp/>

- 表彰式レポート

<http://www.meiji.ac.jp/ubiq/info/2011/6t5h7p000004ieim.html>

- 明治大学ユビキタス教育ホームページ

<http://www.meiji.ac.jp/ubiq/>



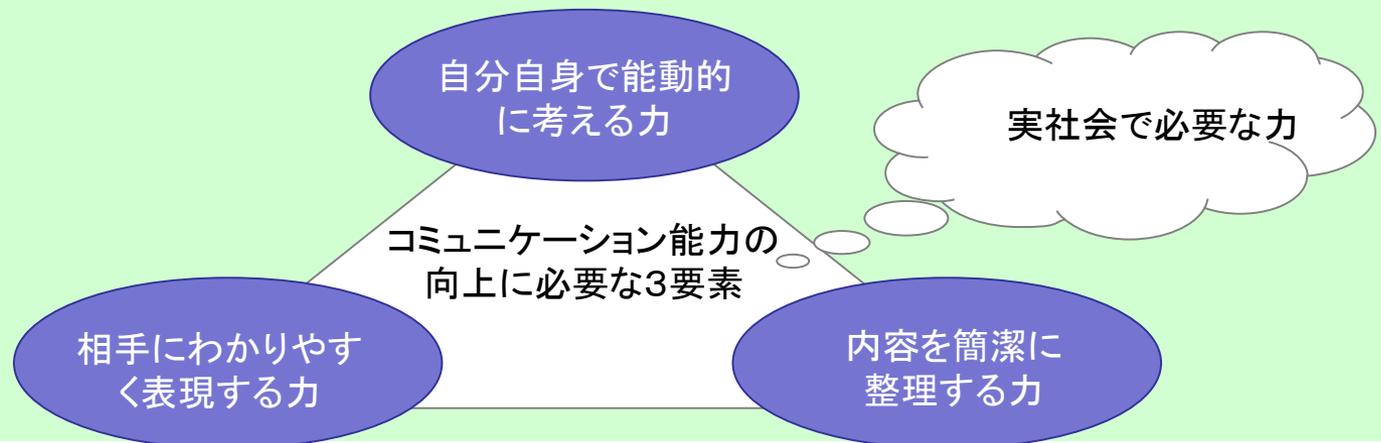
大学の期待する効果

- 「学生主導型の e-Learning」の基盤を構築する契機に
- 「明治大学として e-Learning の活用を一層進める契機に
 - 学生のコンテンツを e-Learning教材や大学の取り組みPR用に活用することが可能
 - 他大学や海外の大学との、インターネットを通じた交流促進
 - 参加した学生が、コンテンツ制作のスタッフとして参画



参加学生に対する効果

- 「実社会に必要な力」の向上
 - コミュニケーション力, プレゼンテーション力, デザイン力の向上
 - 自分の大学生活の見直し, 振り返りの契機
 - チームワーク構築のスキル向上(団体参加の場合)
 - コンテスト参加実績による, 就職時のアピールポイントの追加



韓国研修旅行

- 11月23日～27日 韓国・嶺南大学校
- 明治大学の学生と嶺南大学校の学生がチームとなり、近辺の史跡等を訪れ韓国の文化に触れた。そこで収録した写真・ビデオを嶺南大学校へ持ち帰り、日韓学生チームで動画コンテンツを作成した。コンテンツ作成は深夜にまで及び(ほぼ徹夜?)最終日の発表会で披露された。この発表会の模様は韓国内で開催された教育関係研修会, 明治大学へ同時配信された。



教授システム学部



Kumamoto University



2017/11/25 14:03

博士論文 あらまし

教育活動における

eラーニングの効果的な活用の実現

組織体制が健全に機能することで効果が得られることを
組織構造の大学eラーニングマネジメントモデル評価から修正し、確立する

大学eラーニングマネジメントモデルを
日本国内の大学事例研究と実証実験から評価する

効果的な教育活動を行うための支援組織モデル
「大学eラーニングマネジメントモデル」を提案する

eラーニングの戦略的導入

eラーニングを利用した教育活動を高等教育機関に浸透させるには
組織体制がとても重要である

教育改善、教育の多様化に対応するために、
教育活動を構造化し役割分担を確実に行う必要がある

社会ニーズ

仮モデル

ら学習資源を入手しつつ科目コンテンツの設計
設計をするぞ。

当の先生！教科担当教員への厳しい回答や依頼
をお願いします。

・教材作成はとても大変そうだ。
・いままでの対面授業と違うところはど
んなところなのかな。

大変そうだな。チュータ
さんお手伝いお願いね。

教員

(インストラクタ

先生と意思の疎通はきち
んとおこう。

授業構成やコンテンツの確認を先
生にお願いしてください

問合せの回答やコンテンツ
の評価を返します

困った時は助けてください

適切な回答を返しますよ

簡単な質問は私の作成
した、難しいものにつ
いては先生に確認した
回答です

授業構成やコンテンツ、教材に関する先生のご
意向・評価をお伝えします

・各種問合せやコンテンツ評価依頼が
きています。ご回答をお願いします
・進捗状況についてお知らせします

・楽しみだな。
・ちゃんと最後までがん
ばれるかな。

学習者のよき相談相手にな
れればよいな。

学習内容に関する質問への
回答よろしく

インストラクショナル
デザイナー

学習者のモチベーション
を上げる回答をします

コンテンツの
確認お
願いま
す

ID設計に
基づくコ
ンテンツ
開発・修
正お願
いしま
す

教員 (SME)

チュータ

学習者

ラーニング
コンシェルジュ

メンタ

学習者のメンタル的なケ
アもしなくっちゃ。

組織体制が機能しているのかに
ついての報告

学習生活に関する質問へ
の回答よろしく

LMSへの搭
載も知的財
産処理も担
当だな。

コンテンツ
スペシャリス

教材と映像に
ついての先生
からの回答で
す

お手伝いで作成した教材
です。先生に確認を
お願いします

問題点に対する改善
指示

しっかりサポートしますよー。

・教材作成のお手伝いお願いね

先生の教材作成のお手伝い、
ちゃんとしなくっちゃ。

学内の調整はちゃんとやろう。

ヘルプデスク

教材と映像に
ついて先生に
質問お願
いしま
す

・先生の負荷を軽減しなくては。
・進捗状況を把握していなきゃ。

プロジェクト管理

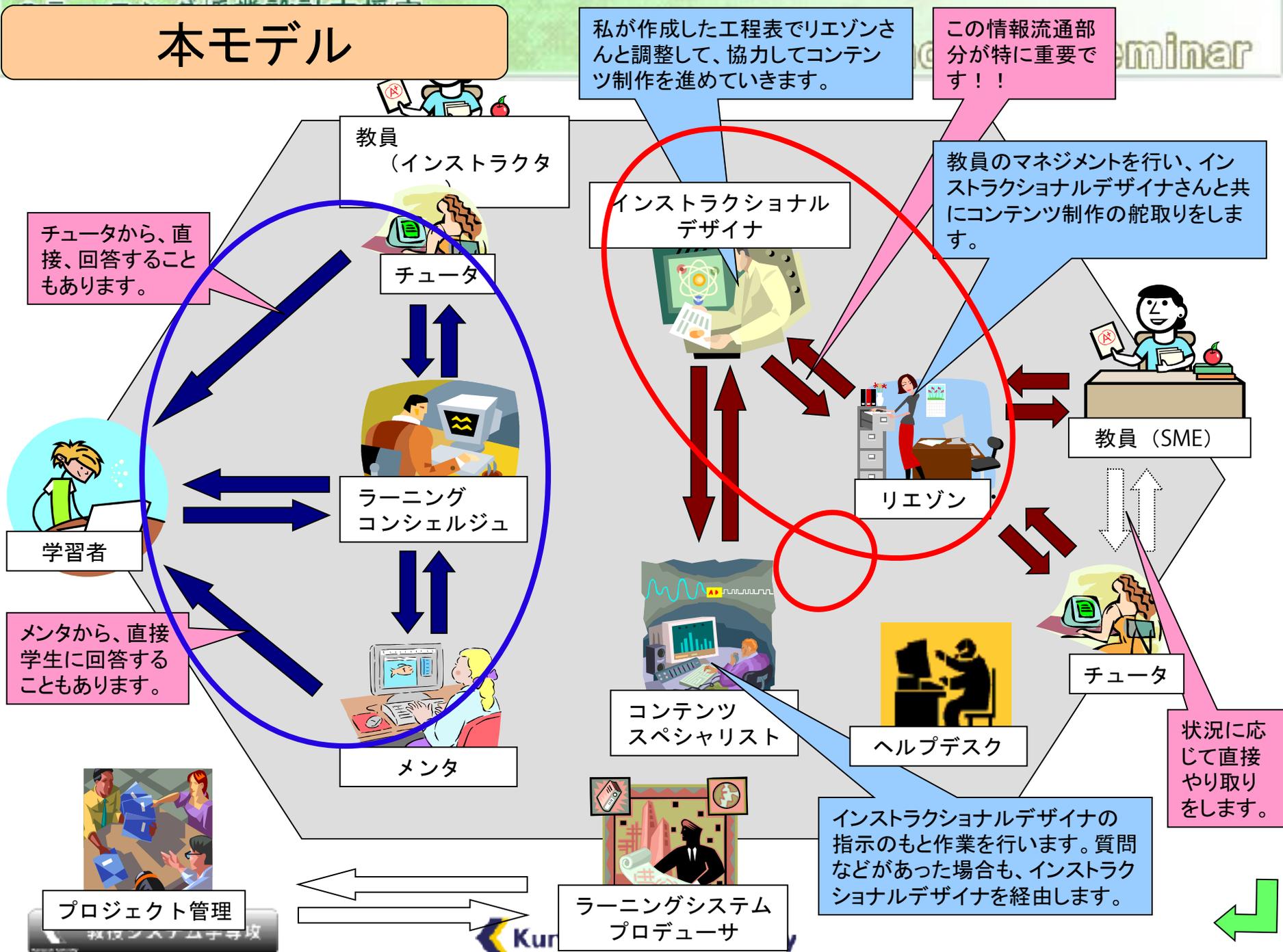
eラーニング推

ラーニングシステム
プロデューサ

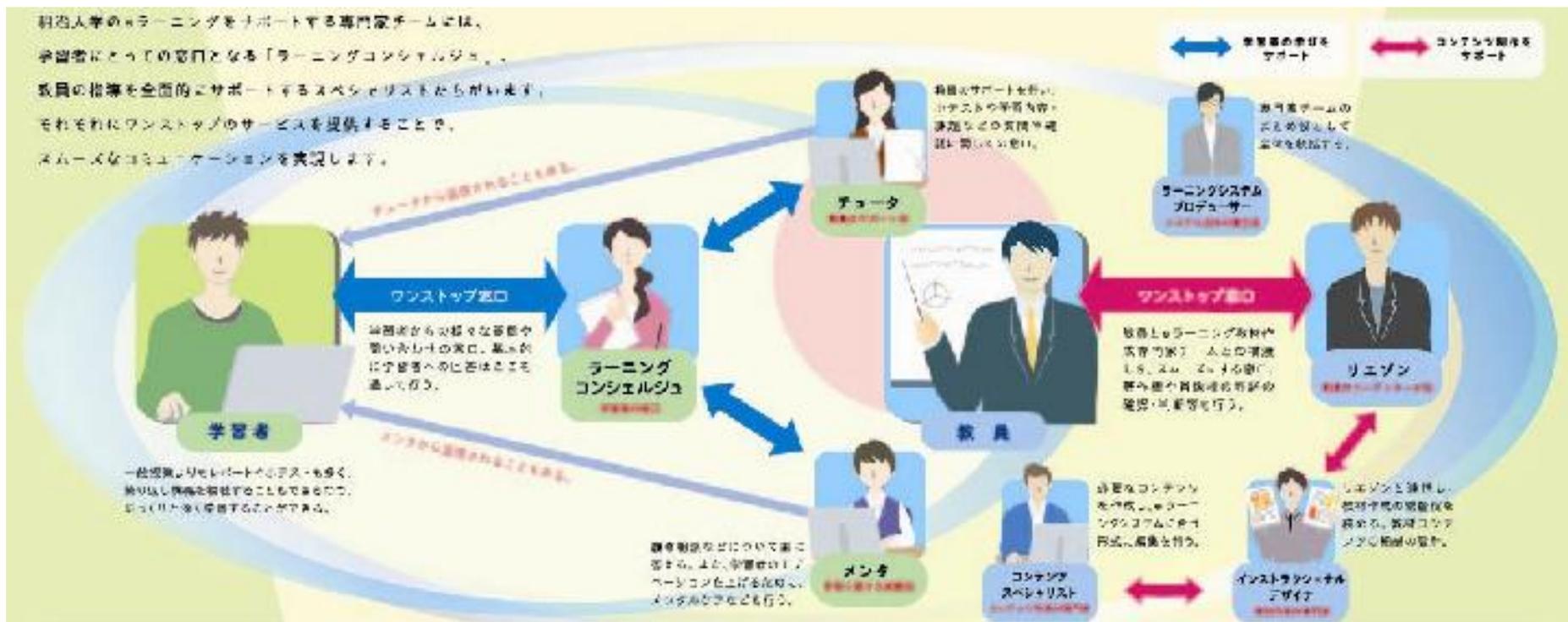
・組織としてきちんと機能しているかのチェックをしよう。
・隙間をきちんと埋めて、全体のコントロールをしよう。



本モデル



大学eラーニングマネジメントモデル



大学eラーニングマネジメントモデルの 今後の課題(まとめ)

- ・ 高等教育機関にとってのeラーニング実践の道しるべに向けて
- ・ 職能を維持しつつ、一部システム化を含めて簡易的にそしてコストを抑えた形で実施規模を拡大しながらも同じ機能をどのように実現させていくか
- ・ **この組織的な支援体制を機能させる専門家の育成**
- ・ 継続的に教育改革を実現できるか
 - 継続的に効果的な教育改革を実現できるチェック体制を含めた組織体制を作り上げていく
- ・ eラーニングの大きな問題である「質の保証」に対する解決の一端を担えるか



学生主導型コンテンツ制作の 今後に向けて

- ・ 第1回eプレゼン・コンテストから見てきたこと
 - 表彰式の盛り上がりから学生の真剣さを感じた
 - ・ 学生主導型コンテンツ制作の光明？
 - 1次より2次, 2次より決勝と確かにうまくなっていた
 - ・ 採点表から見える？
 - ・ 繰り返しの必要性
 - その後のコンテンツを活用をどうするか？
 - 参加した学生の活用は？
 - 先生への刺激になっているのか？



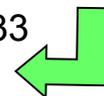
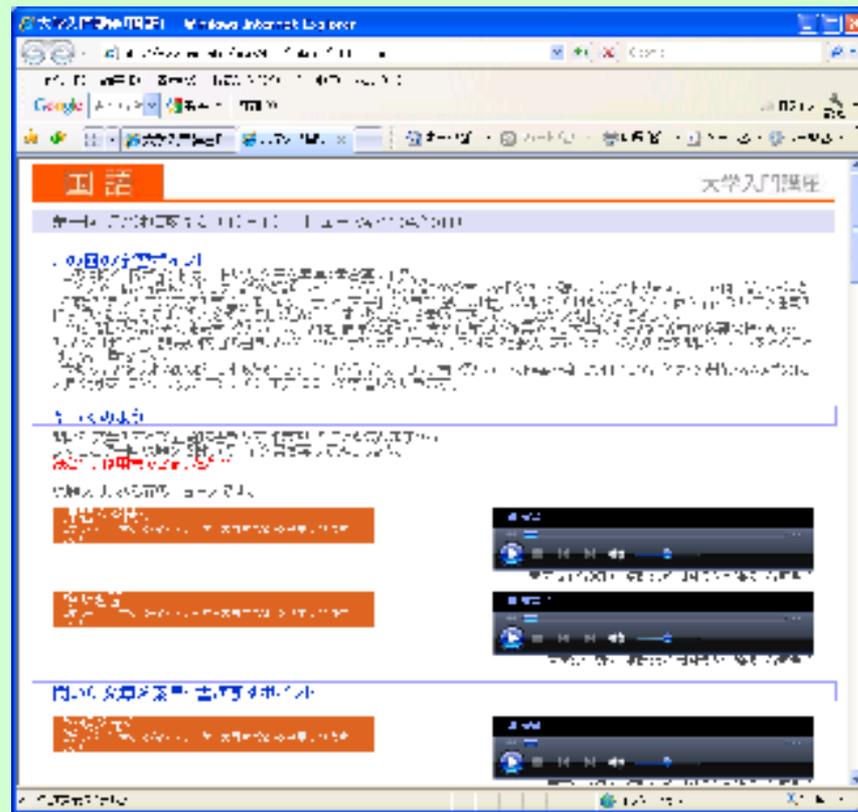
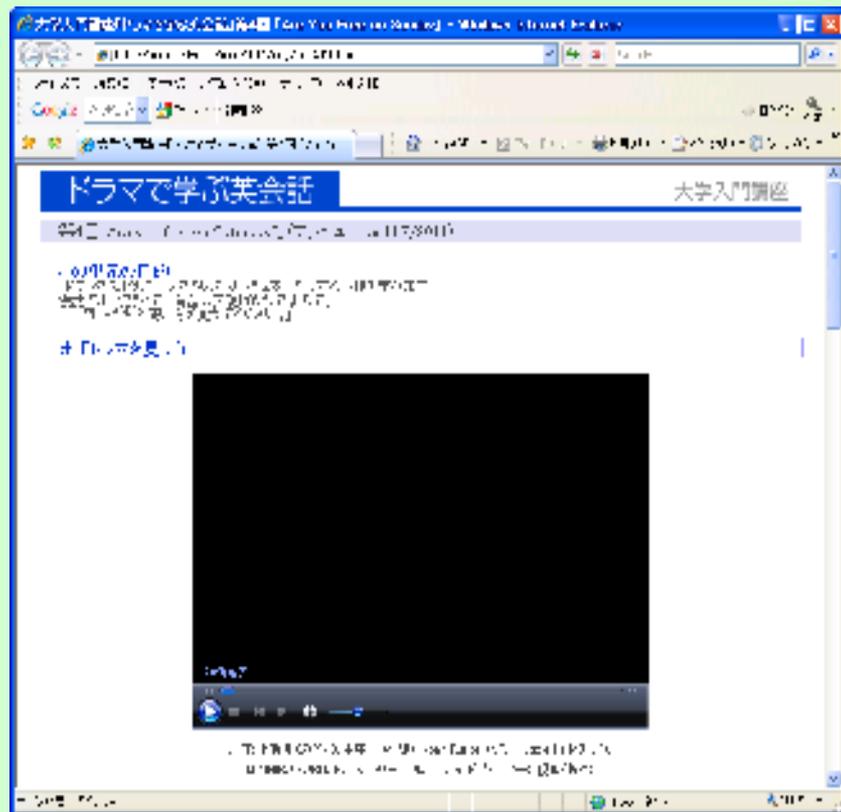
ユビキタス教育推進のコンセプト(方針)

- ・ 新しい教育方法としてのeラーニングや遠隔教育を
発展・定着させる
- ・ 世界に向けて明治大学の教育研究を発信していく
- ・ 教育のユニバーサルアクセスの実現を力強く推進
する
- ・ eラーニングによる学習支援を充実させ学生の学び
を支援する体制づくりの構築を行うとともに、教員へ
の教育準備支援を充実させ、体系的な教育支援体
制の確立を目指す
- ・ 次世代の大学教育を支援する体制を確立していく



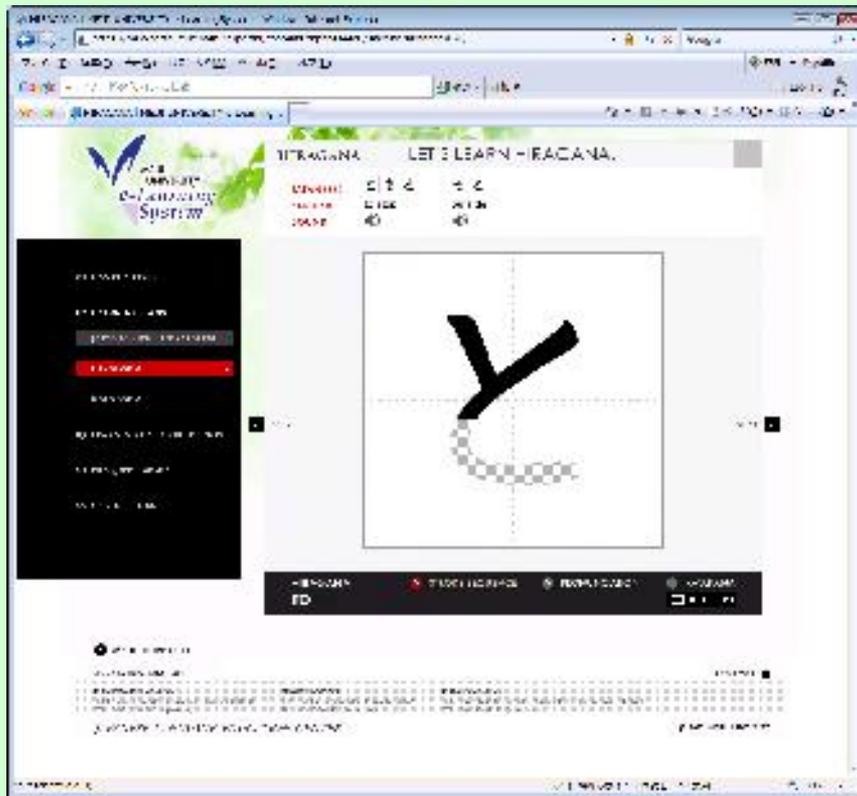
様々な場面でのeラーニング活用に向けて

- eラーニングを活用したリメディアル教育



様々な場面でのeラーニング活用に向けて

- かな学習 (<https://muc-portal.muc.meiji.jp/portal/contents/japaneseedu/>)



様々な場面でのeラーニング活用に向けて

- 留学希望者向けWebテストの開始

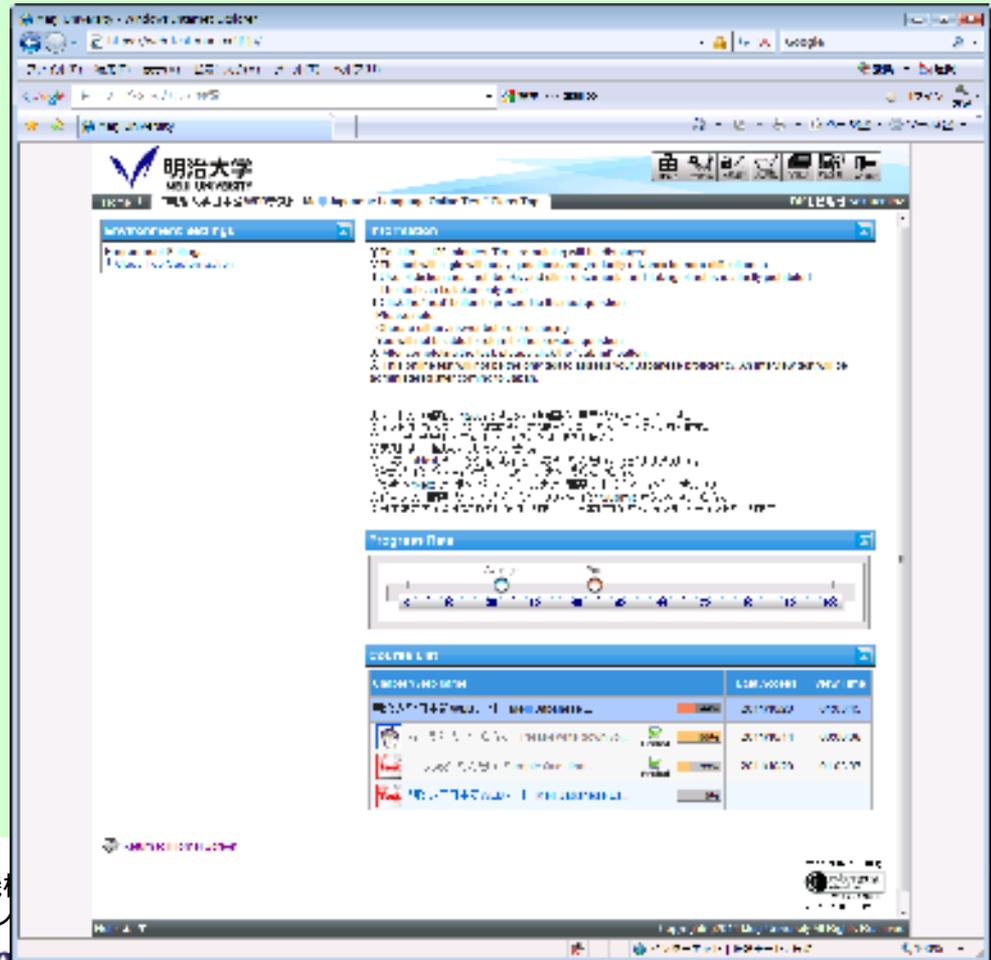
当初は、国際連携機構が
主導する留学生が対象



多くの全学部から問い合わせ



全学での実施に向けて



様々な場面でのeラーニング活用に向けて

• 施設の拡充

駿河台キャンパスのスタジオ

- eプレゼン・コンテストコンテンツ制作のため、メディア授業制作のためには使用開始
- 学生も利用できる運用を目指して検討中

